



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

上野彰修さんはまず学生時代のことを話された。上野さんは「高校時代は陸上部で長距離をしていた。だが駅伝に出場したときに自分のせいで負けてしまい、学校に行くのが憂鬱になったので保健室登校をしていた。その後大学で日本史の先生を目指していた」と明かされた。就職については「自分は人を喜ばせること

が好きだった。お菓子が嫌いな人はあまりいないと思い、人を喜ばせるのにお菓子が最適だと思ったので和菓子屋に就職した」と明かされた。また上野さんは「自分自身をもう一度見つめ直したときに自分はネガティブだが、それは危険予知能力が高いということだと気が付いた。そのおかげで営業に行くときにさ

まざまな状況を予測して動けた」と微笑まれた。加えて上野さんは「和菓子は長い歴史があるが、職人の高齢化に伴って昔ながらのお菓子がなくなっている。自分が少しでも日本の歴史を守ることができたらうれしい」と打ち明けられた。

上野彰修さん

株式会社伊藤軒 製造チームチーフ
生産管理 和菓子PB開発担当



#玉園中学校 #陸上部 #京都 #岡山 #滋賀 #保健室登校 #ネガティブも痛キャラも突き抜ければ強み #和菓子屋の営業担当で年間売上1億アップ #Is it enough to die? (このまま死ぬだけでいいの?) など

最後に上野さんは「自分の人生なのだから基本的に何をしても良いだと思ふ。メリハリをつけて生きてほしい」と締めくくられた。

総合教養講座 参加者紹介①

眞野あゆなさんは自身の進路について「父が美術関係、母が音楽関係の仕事に就いていたため将来の方向性が決まりつつあった。なので自分の中で普通に会社に就職するというイメージがなかった」と振り返られた。以前、影絵制作のアシスタントをされたことがあったそう、現在は影絵のパフォーマンスユニットに所属されている。そのことについて「今制作している影絵はアナ

ログだけでなくダンスの陰などを使って制作している。アーティストとコラボすることもある」と説明された。眞野さんはサロンのオーナーでもあり、サロンを開こうと思われた理由を「家族の心の病で2年間くらい看護生活をして、人を直接癒す仕事に興味を持った。そこでハワイの伝統の自然治療法を知り、実際にハワイに学びに行つて日本です仕事にしたいと思った」と明かされた。自身の経験から「いろんな人の意見を自分のなかで変換できるようにになれる」といい。感じたこと、経験したことが大切だと思う」とアドバイスされた。



ALOHAPPOOL代表(サロンオーナー兼セラピスト&講師)
影絵パフォーマンスユニット所属
眞野あゆなさん

#彦根南中出身 #アメフト部マネージャー #愛知
#カナダ #東京 #大阪 #滋賀 #好奇心旺盛 #ナチュラリスト #こだわり出したらテコでも動かない
#世界平和はイメージから